

<b>【科目名】</b> ミクロ経済学	<b>【単位数】</b> 4単位	<b>【科目区分】</b> 専門科目
<b>【担当者】</b> 森 統 Mori Osamu	<b>【オフィス・アワー】</b> <b>時間・場所:</b> 開講時にお知らせします	<b>【授業の方法】</b> 講 義
<b>【科目の概要】</b> <p>希少な資源を用いて「何をどれだけ」「どのように」「誰のために」生産するかという問題を経済の基本問題といえます。この資源配分の機能を果たす代表的なシステムが市場機構であり、そこで重要な役割を演じるのが価格です。ミクロ経済学は、市場における、価格による資源配分の分析を基本とするものです。</p> <p>本講義では、ミクロ経済学の基本的な内容を学んでゆきます。具体的には、市場の参加者である消費者(あるいは家計)や企業の意思決定とそれに基づいた需要と供給の特性の分析、また、純粹(完全)競争、独占、独占的競争および寡占の様々な市場における均衡の特徴に関する分析、そして、資源配分の効率性から見た競争市場均衡、独占、課税や規制などの政府の政策の評価についてみてゆきます。</p> <p>本講義では、現実経済の事例を意識しながらも、基本モデルの理論的構造の解説が中心となります。</p>		
<b>【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】</b> <p>ミクロ経済学の理論を基礎づける経済学的考え方に習熟することは、日々の経済的現象を的確にとらえ、それに対する対処や政策を考えるうえで有用です。</p> <p>また、ミクロ経済学は、公共経済学、財政学、金融論、産業組織論、国際経済学など、経済学の他の応用分野を学ぶ上で重要な基礎的理論で構成されています。これらの経済学分野を履修するのに、ミクロ経済学の知識は不可欠と言ってよいでしょう。</p> <p>さらに、ミクロ経済学は、種類によりますが公務員試験の出題対象となっているので、本講義は、試験対策の基礎固めとして役立つと思われます。</p>		
<b>【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】</b> (中間目標) まずは、専門用語である基礎的概念および理論構造を正確に理解することが重要です。 また、ミクロ経済学に関連する基礎的演習問題が確実に解けるようにします。 (最終目標) 現実の経済問題に対してミクロ経済学の考え方をを用いて分析や説明ができることを目指します。		
<b>【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】</b> 受講生が内容を十分に理解することができるように、進捗状況に配慮しつつ、計算のプロセスなど丁寧な説明を心がけたいと思います。		
<b>【教科書】</b> ハル・R・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015年		
<b>【指定図書】</b> 特になし。		
<b>【参考書】</b> 参考書は、講義時間中に紹介します。		
<b>【前提科目】</b> 経済学基礎論のミクロ経済学の部分をよく復習しておくことが望ましいです。		
<b>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</b> 2回の小テストおよび定期試験の結果により評価します。		

**〔評価の基準及びスケール〕**

評価の基準として、小テスト(2回)および期末試験の総合結果として、100点満点で80点以上がA、70点以上80点未満がB、60点以上70点未満がC、50点以上60点未満がD、50点未満をFとします。

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

具体例や図を多く使いながら、内容を直観的に把握しやすい説明を心がけたいと思います。数式については、必要最小限の簡便なものに限って使用するつもりですが、やや複雑な数式を用いる場合、その初歩的な計算方法を含めて丁寧に解説します。

講義資料を配付する場合、資料は必ずしも完成されたものではなく、講義を聴いて内容を補い、完成させてゆく形になっている場合があります。毎回の講義で不明の部分を残さないよう心がけてください。また、復習をし、学んだことを定着させることを勧めます。

講義の中で適宜復習にあてる時間をとり、そこで演習問題を解きますが、これは小テストおよび期末試験の予行練習となります。

**〔実務経歴〕**

実務経歴はありません。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):マイクロ経済学とは 内 容:マイクロ経済分析の特徴  教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):需要と供給(経済学基礎論の復習) 内 容:需要曲線、供給曲線、市場均衡  教科書 1章 指定図書 4章
第3回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(1) 内 容:予算制約  教科書 2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(2) 内 容:消費者の選好と無差別曲線  教科書 3章
第5回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(3) 内 容:効用  教科書 4章
第6回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(4) 内 容:消費者の最適選択  教科書 5章
第7回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(5) 内 容:所得・価格の変化と消費者の選択、代替効果と所得効果、スルツキー方程式  教科書 6章8章
第8回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(6) 内 容:総効果の分類、労働供給  教科書 8章9章

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費者行動(7)          内 容:市場需要と弾力性</p> <p>教科書 15 章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費者行動(8)          内 容: 消費者余剰</p> <p>教科書 14 章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費者行動理論の復習:小テスト第1回          内 容:小テストの実施および解説</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業行動(1)          内 容: 生産技術と生産関数</p> <p>教科書 19 章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)企業行動(2)          内 容:費用最小化の条件</p> <p>教科書 21 章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業行動(3)          内 容:費用の諸概念、費用関数、費用曲線</p> <p>教科書 22 章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業行動(4)          内 容:総費用曲線、限界費用と平均費用、短期費用曲線と長期費用曲線</p> <p>教科書 22 章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業行動(5)          内 容:純粹(完全)競争、企業の利潤最大化条件、短期供給曲線、生産者余剰</p> <p>教科書 20 章 23 章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業行動(6)          内 容:長期供給曲線、産業の供給</p> <p>教科書 23 章 24 章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業行動理論の復習:小テスト第2回          内 容:小テストの実施および解説</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場均衡          内 容: 市場の調整、均衡の安定性</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):競争市場均衡の効率性:部分均衡分析          内 容:競争的市場均衡と社会的余剰</p> <p>指定図書 6 章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場均衡と政策          内 容:余剰分析による政策の効率性評価</p> <p>教科書 14 章</p>

第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):不完全競争理論(1)</p> <p>内 容:独占の価格設定</p> <p>教科書 25章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):不完全競争理論(2)</p> <p>内 容:自然独占、独占的競争</p> <p>教科書 25章 26章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):不完全競争理論(3)</p> <p>内 容:寡占、クールノー・モデル、シュタッケルベルグ・モデル</p> <p>教科書 28章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論</p> <p>内容:囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、参入障壁ゲーム</p> <p>教科書 29章 30章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):競争市場均衡の効率性:一般均衡分析</p> <p>内 容:パレート効率性、エッジワースのボックスダイアグラム、消費の効率性</p> <p>教科書 32章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):競争市場均衡の効率性(2)</p> <p>内 容:生産を含む経済における競争市場均衡の効率性、厚生経済学の基本定理</p> <p>教科書 33章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):厚生経済学の基礎 (1)</p> <p>内 容:効用可能性フロンティア、社会的厚生関数</p> <p>教科書 34章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):厚生経済学の基礎 (2)</p> <p>内 容:公正な配分、羨望と衡平</p> <p>教科書 34章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の失敗</p> <p>内 容:公共財の供給</p> <p>教科書 37章</p>
試 験	<p>期末試験期間中に実施。</p>